平成２４・２５年度文部科学省・熊本県教育委員会指定

子どもたちの自立支援事業

研究紀要

研究主題

**子ども一人一人の存在感がある
魅力ある学校づくりをめざして**

～子どもがいきいきと活動する場の充実と組織的な指導支援を基盤として～

平成２５年１１月１４日（木）

上天草市教育委員会
上天草市立登立小学校
上天草市立中北小学校
上天草市立大矢野中学校
上天草市立上小学校
上天草市立中南小学校

ごあいさつ

平成２０年３月に新学習指導要領が公示され，これからの学校教育の方向性が示されました。全面実施から小学校においては３年目，中学校では２年目となり，本市におきましても各学校で新学習指導要領の趣旨を生かした教育実践を積み重ねているところです。

上天草市教育委員会においては，平成２３年４月に上天草市教育振興基本計画を策定し，学校，家庭・地域，行政が一体となって「生きる力と上天草を愛する心を持ったひとづくり」を目指しています。そして，その教育振興計画の重点施策「豊かな心の育成」の一つとして，「楽しく登校できる学校づくり」を掲げ，全市をあげて取り組んでいるところです。

本市では，平成２４年度から２か年にわたって，文部科学省及び熊本県教育委員会から「子どもたちの自立支援事業」の研究指定を受けました。大矢野中学校区（１中学校，４小学校）で，本研究を進めるにあたり，本市の教育振興計画を踏まえ，研究主題として「子ども一人一人の存在感がある魅力ある学校づくりをめざして」を掲げ，不登校の未然防止，早期解消に取り組んで参りました。研究の３つの視点から主に９つの実践に取り組み，平成２２年度からの不登校児童生徒の出現率は確実に減少してきました。

ここに，２年間の成果を発表するにあたり，多くの皆様のご参会をいただき，大変ありがとうございます。皆様のご批正を仰ぎながら，今後のさらなる研究に生かしていきたいと思います。また，各学校におかれましても，児童・生徒の実態に応じて，本研究内容を深化・発展させていただき，不登校の未然防止や早期解消等に役立てていただければと思います。

最後になりましたが，これまでご指導とご協力いただきました文部科学省，熊本県教育委員会，熊本県天草教育事務所の先生方をはじめ，多くの関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成２５年１１月１４日

上天草市教育委員会
教 育 長　藤 本　敏 明

目　　次

ごあいさつ

Ⅰ　研究の概要
　１　研究主題　1

　２　主題設定の理由　1

　３　研究の内容　2

Ⅱ　研究の実際
　１　視点①「支持的風土のある学習集団づくり」について
　　(1)　学習意欲と学習の主体者としての意識を高める授業づくり　3
　　(2)　互いの考えを伝え合い，共に高め合う言語活動の充実　4
　　(3)　心に響く道徳教育の充実　5
　　(4)　取組の成果と今後の課題　5

　２　視点②「絆づくりの場としての学校教育活動等の充実」について
　　(1)　心をそろえる学校内外の生活環境の整備　6
　　(2)　児童会・生徒会活動の活性化　8
　　(3)　人間関係づくりに関するカリキュラムの実践　9
　　(4)　取組の成果と今後の課題　１０

　３　視点③「不登校の未然防止・解消に向けた関係機関との連携」について
　　(1)　しろやまハウス（大矢野中学校内分教室）の運営　１１
　　(2)　学校復帰，教室復帰に向けたプログラム開発とその推進　１２
　　(3)　組織的な校内支援体制の確立と関係機関との連携　１４
　　(4)　保育園・小学校・中学校・高等学校の連携の充実　１５
　　(5)　諸たよりの発行　１６
　　(6)　取組の成果と今後の課題　１７

Ⅲ　研究の成果と課題
　１　視点①「支持的風土のある学習集団づくり」について　１７

　２　視点②「絆づくりの場としての学校教育活動等の充実」について　１８

　３　視点③「不登校の未然防止・解消に向けた関係機関との連携」について　２０

おわりに

Ⅰ　研究の概要

１　研究主題

子ども一人一人の存在感がある魅力ある学校づくりをめざして ～子どもがいきいきと活動する場の充実と組織的な指導支援を基盤として～

２　主題設定の理由

（１）上天草市教育委員会教育方針等より

上天草市教育委員会においては,平成２３年４月に上天草市教育振興基本計画を策定し，学校，家庭・地域，行政が一体となって「生きる力と上天草を愛する心を持ったひとづくり」を目指している。そして，その重点施策「豊かな心の育成」の一つとして，「楽しく登校できる学校づくり」を掲げ，全市をあげて以下のことに取り組んでいる。

〇いじめ問題の解決　　〇不登校の未然防止と早期解消

〇いじめ不登校アドバイザーによる相談体制の充実

本市における不登校児童生徒数は年度によって差は見られるものの，ここ数年は２０人程度で推移しており，不登校児童生徒の学校復帰に向けての取組を充実させるとともに，欠席の状況や要因を見極めて，不登校につながらない取組や早期の対応を図っていく必要がある。不登校問題は，本市における重点課題の一つである。

（２）大矢野中学校区の実態より

大矢野中学校区は上天草市の東北端にあり，天草地域の玄関口に位置している。

校区内の小・中学校の構成は，平成２３年度まで１中学校と５小学校から構成されていたが，平成２４年度から再編統合の結果，１中学校と４小学校で構成されている。校区内の実態としては，明るく元気な児童生徒が多く，全校において部活動に熱心に取り組んでいるのが特徴である。しかしながら，学習面において，基礎的・基本的な知識技能の確実な習得，家庭学習の習慣化といった面では課題が見られる。

過去３か年の校区内の不登校児童生徒数（不登校が原因で年間３０日以上の欠席者）の状況は以下のとおりである。

平成２２年度	中学校１１名　小学校１名　（上天草市２０名）	出現率　1.06 %
平成２３年度	中学校１１名　小学校１名　（上天草市２２名）	出現率　1.10 %
平成２４年度	中学校　５名　小学校１名　（上天草市１７名）	出現率　0.57 %

平成２２年度から２３年度の２年間の校区内の不登校児童生徒の出現率は１％程度であるが，中学校だけを算出すると，約２．９％となり，高い数値を示している。しかし，本事業に取り組んだ２４年度は０．５７％（中学校のみの出現率は１．２７％）とほぼ半減している。

しかし，不登校に至った要因としては，集団内の人間関係の未構築，家庭環境の変化，コミュニケーション能力の不足，問題行動等生徒指導上の課題など多岐にわたっている。

（３）過去の研究実績等より

大矢野中学校区においては，熊本県教育委員会指定「自立支援実践モデル事業」（平成１８～２０年度），文部科学省委託「子どもたちの自立支援事業」（平成１９・２０年度）

を受け，９か年を見通した人間関係づくりプログラムの開発と実践，大矢野中学校内の分教室「しろやまハウス」の設立と運営についての研究を中心に取り組んできた。

また，大矢野中学校においては文部科学省委託「道徳教育実践研究事業」（平成２０・２１年度）を受け，魅力ある道徳の時間の授業づくり，豊かな心を育む学習環境の整備等に取り組んできた。

これらの研究を通して，各研究年度においては数々の成果が生まれたが，その成果や実践内容が現在に引き継がれていない点も多々見られる。そこで，過去の研究実践及び成果や課題を再度洗い出し，現在の教育実践に生かす必要がある。

以上のような実態や課題をふまえ，不登校の未然防止と解消を図るために，子ども一人一人の存在感がある魅力ある学校づくりをめざすことが大切であるととらえ，研究主題を設定した。

３　研究の内容

（１）研究の仮説

仮説１	学習に対して自信と意欲を持たせ，互いのよさを認め学び合う学習集団を構築するならば，子どもたちが自らの存在感を実感するとともに，学校が子どもたちにとって魅力のある学校となるであろう。
仮説２	共同の学校教育活動を通して，子ども同士，教師と子ども間の心の結びつきや信頼感を高めながら，社会性を身につけさせるならば，子どもたちが自らの存在感を実感するとともに，学校が子どもたちにとって魅力のある学校となるであろう。
仮説３	不登校傾向や不登校の子どもたちの状況を適切に把握し，関係機関と効果的な連携を図りながら，学習活動をはじめ各活動の場を保障するならば，不登校の子どもたちが自らの存在感を実感し，不登校の未然防止や解消につながるであろう。

（２）研究の視点

ア　視点①：支持的風土のある学習集団づくり

（ア）学習意欲と学習の主体者としての意識を高める授業づくり

（イ）互いの考えを伝え合い，共に高め合う言語活動の充実

（ウ）心に響く道徳教育の充実

イ　視点②：絆づくりの場としての学校教育活動等の充実

（ア）心をそろえる学校内外の生活環境の整備

（イ）児童会・生徒会活動の活性化

（ウ）人間関係づくりに関するカリキュラムの実践

ウ　視点③：不登校の未然防止・解消に向けた関係機関との連携

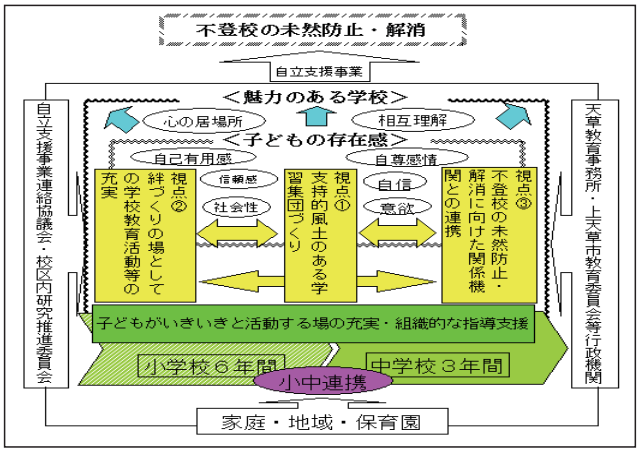
（ア）しろやまハウスの運営と復帰プログラムの開発

（イ）組織的な校内支援体制（いじめ・不登校対策委員会，ケース会議等）の確立と関係機関との連携

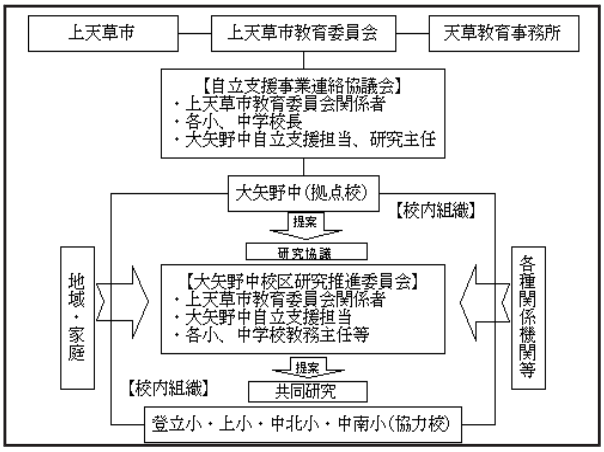
（ウ）保育園・小学校・中学校・高等学校の連携の充実

（３）研究の構想

＜研究構想図＞



＜研究組織図＞



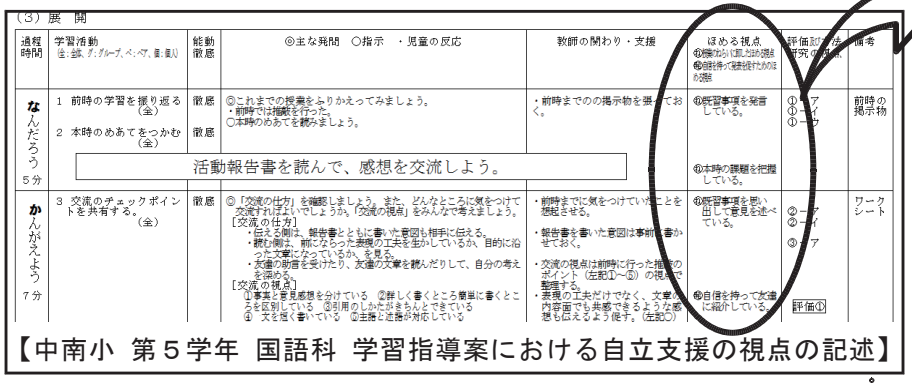
Ⅱ　研究の実際

１　視点①「支持的風土のある学習集団づくり」について

（１）学習意欲と学習の主体者としての意識を高める授業づくり

ア　「ほめる・励ます」評価を取り入れた授業づくり（小中全校）

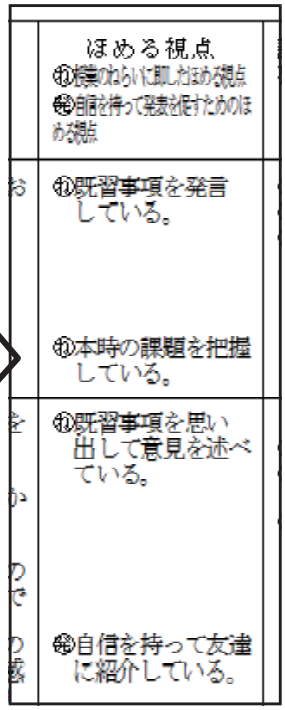
授業における子どもたちの発言や行動等の中によさを見つけて「ほめる・励ます」ような声かけを意図的・計画的に行った。学習指導案においては，指導観や本時の展開の中に「ほめる視点」や「ほめる内容」等を明記するとともに，自立支援の視点をもって授業を行うようにした。そのことにより，子ども同士や子どもと教師のつながりを意識した授業が展開できた。



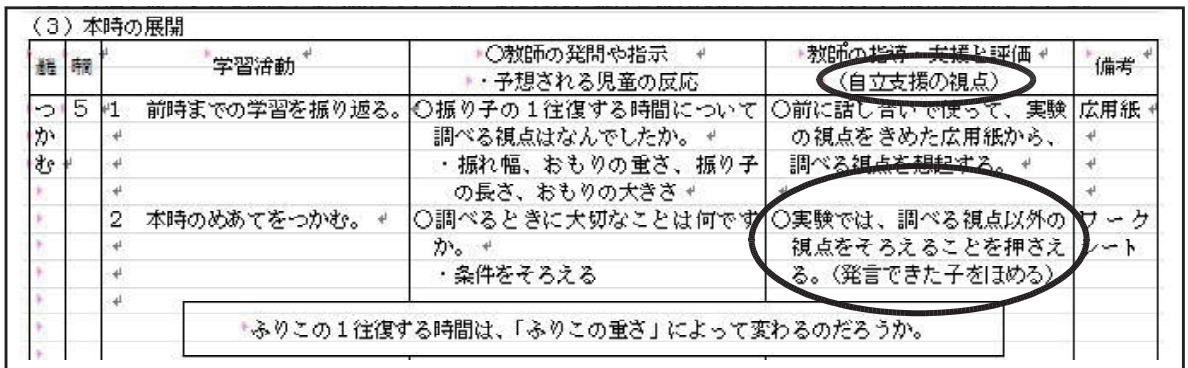
（３）展　開

過程 時間	学習活動 (全・班、グ：グループ、ペ：ペア、個：個人)	能動 徹底	◎主な発問　○指示　・児童の反応	教師の関わり・支援	ほめる視点	評価記録	備考
なんだろう 5分	1　前時の学習を振り返る（全） 2　本時のめあてをつかむ（全）	徹底 徹底	◎これまでの授業をふりかえってみましょう。 ・前時では振動を行った。 ○本時のめあてを読みましょう。	・前時までのの掲示物を張っておく。	④既習事項を発言している。 ④本時の課題を把握している。	①②③ペア ①ペア	前時の掲示物
	活動報告書を読んで、感想を交流しよう。						
かんがえよう 7分	3　交流のチェックポイントを共有する。（全）	徹底	◎「交流の仕方」を確認しましょう。また，どんなところに気をつけて交流すればよいでしょうか。「交流の視点」をみんなで考えましょう。 ［交流の仕方］ ・伝える側は、報告書とともに書いた意図も相手に伝える。 ・聞く側は、前にならった表現の工夫を生かしているか，目的に沿った文章になっているか，を見る。 ・友達の前書を受けたり，友達の文章を読んだりして，自分の考えを深める。 ［交流の視点］ ①事実と意見感想を分けている　②詳しく書くところ簡単に書くところを区別している　③引用のしかたがきちんとできている ④　文を短く書いている　⑤主題に近接が対応している	・前時までに気をつけていたことを想起させる。 ・報告書を書いた意図は事前に書かせておく。 ・交流の視点は前時に行った指導のポイント（左記①～⑤）の視点で整理する。 ・表現の工夫だけでなく、文章の内容面でも共感できるような感想も伝えるよう促す。（左記⑤）	④既習事項を思い出して意見を述べている。 ⑤自信を持って友達に紹介している。	②③ペア ②③ペア ③ペア 評価①	ワークシート

【中南小　第５学年　国語科　学習指導案における自立支援の視点の記述】



ほめる視点	
④指導のねらいに即したほめる視点 ⑤自信を持って発表を促すためのほめる視点	
④既習事項を発言している。 ④本時の課題を把握している。	お
④既習事項を思い出して意見を述べている。 ⑤自信を持って友達に紹介している。	を か で の



（３）本時の展開

過程	時間	学習活動	○教師の発問や指示 ・予想される児童の反応	教師の指導・支援と評価 （自立支援の視点）	備考
つかむ	5	1　前時までの学習を振り返る。	○振り子の１往復する時間について調べる視点はなんでしたか。 ・振れ幅、おもりの重さ、振り子の長さ、おもりの大きさ	○前に話し合いで使って、実験の視点をきめた応用紙から、調べる視点を想起する。	応用紙
		2　本時のめあてをつかむ。	○調べるときに大切なことは何ですか。 ・条件をそろえる	○実験では、調べる視点以外の視点をそろえることを押さえる。（発言できた子をほめる）	ワークシート
		ふりこの１往復する時間は、「ふりこの重さ」によって変わるのだろうか。			

【登立小　第５学年　理科　学習指導案における自立支援の視点の記述】

イ「学びの三原則」の共通実践　（小中全校）

中学校の生徒会が提案して取り組んでいる「学びの三原則」に小学校でも取り組むこととした。

中学生に提示している内容を小学生にもわかりやすい言葉で表し，小学校６年生における共通実践事項として設定した。中学校入学に向けて，各小学校の「学習の約束」と合わせて，４校全ての小学校で共通実践している。

《学びの三原則》

一　チャイム着席
～チャイムの合図で学習を開始し
集中した態度で学習します～

一　私語厳禁
～授業中に私語はせず、
しっかりと人の話を聞きます～

一　元気な発表
～大きな声で意欲的に発表します～

〈大矢野中学校区小学校第６学年共通実践事項〉
1　チャイムで自分の席に着きましょう。
〇チャイムが鳴ったら，すぐに席に着きましょう。
◎席に着いた状態でチャイムを聞きましょう。
2　授業中，話していい時と話してはいけない時のけじめをつけましょう。
〇授業中に無駄なおしゃべりはやめましょう。
◎発言を求められたら，挙手して積極的に発表しましょう。
3　発表する時は，「です」や「ます」など，語尾まではっきりと話しましょう。
〇文末の表現まで自信を持って，はっきりとした声で話しましょう。
◎単語だけでなく，主語・述語を入れて，元気よく発言しましょう。

（２）互いの考えを伝え合い，共に高め合う言語活動の充実

ア　話合い活動の設定　（小中全校）

ペアやグループでの対話や話合い活動，共同作業を授業の深める部分に位置付けるようにした。互いの意見や考えを尊重して，相手のよさを認めようとする意識が高まった。

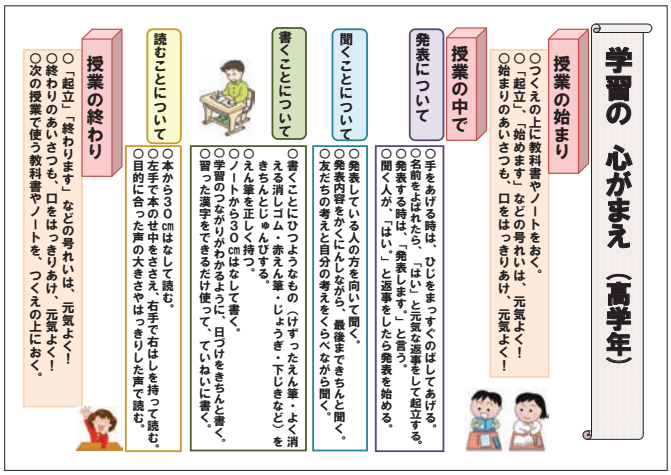
【登立小 第１学年 算数科
「どちらが多い」】

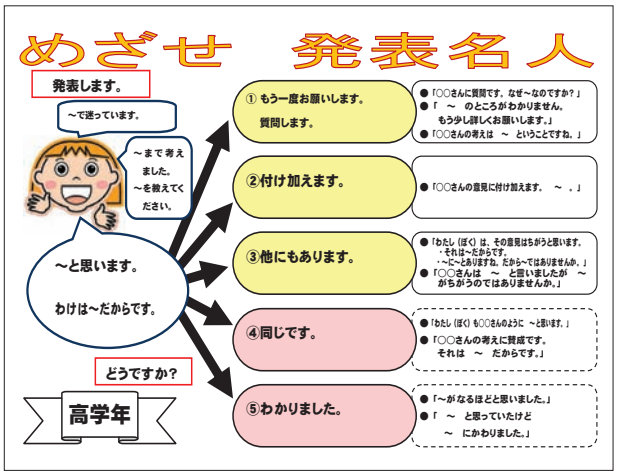
イ　「学習の心構え」・「めざせ発表名人」の作成と活用　（中北小）

学び方の定着を目指し，発達段階に応じて低・中・高学年用の「学習の心構え」と「めざせ発表名人」を作成した。

「学習の心構え」は，内容を「授業の始まり」，「授業の中」，「授業の終わり」で構成し，「めざせ発表名人」は，発表者の言葉だけでなく，発表を聞いた児童の返答の仕方まで細かく示し，発表する力のみならず交流活動の向上をも目指して構成した。

これらは，教師・児童が意識して学習を進めることができるように，各教室の前面に掲示して活用した。また，いつでも内容を確認できるように，B5 版にラミネートしたものを全児童に配付した。これは，家庭に持ち帰って活用することもあり，学校での取組を家庭へ知らせる一方策にもなった。





（３）心に響く道徳教育の充実

ア　道徳コーナーの設置　（小中全校）

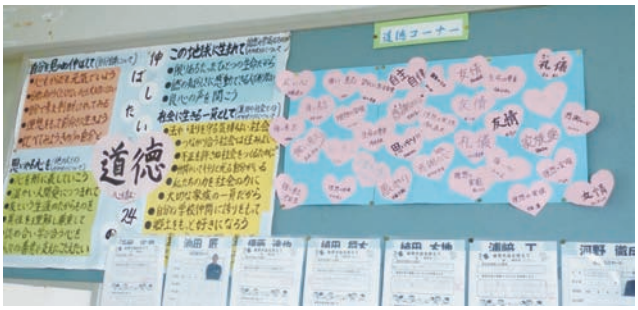
道徳の時間に学んだ内容項目や挿絵，画像等を教室内に掲示し，道徳の時間の日常化を図った。学習後の代表的な感想も掲載し，道徳の時間に学んだ道徳的価値を自覚する機会を増やすとともに，いつでも子どもたちが価値を再確認できるようにした。

校内の掲示板には，心のノートを活用した掲示や「くまもとの心」に掲載されている天草に関係した資料の掲示も行った。

【中南小　第６学年の道徳ｺｰﾅｰ】

イ　道徳の学びを意識化する授業の実施（大矢野中）

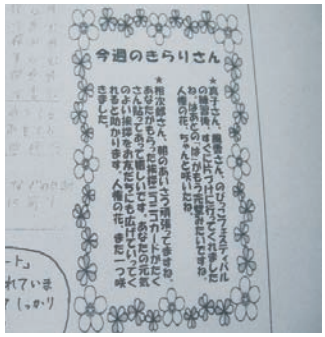
年度初めの第１時に，道徳の時間への関心を高めるための授業を実施した。内容は「道徳で学ぶ２４の心」を知らせ，自身の重点項目を設定するというものである。その内容は年間を通じて教室内に掲示した。



【道徳で学ぶ２４の心と重点項目】

ウ　通信等を利用した保護者との連携　（小中全校）

道徳の時間の学習内容と子どもたちの様子，各行事等での活躍の姿や心の変容等については，学級通信等を通じて保護者に知らせ，連携を図っている。大矢野中学校では，全学級の学級通信を校長室前掲示板に掲示し，来校者も閲覧できるようにしている。



【登立小　児童のよさを知らせる学級通信】

（４）取組の成果と今後の課題

ア　取組の成果

○　指導案に「ほめる視点や内容」を明記したことで，子ども同士や子どもと教師のつ

ながりを意識した授業が展開できた。児童生徒の学習意欲の高揚にもつながった。

○　「学習の心構え」「めざせ発表名人」では，具体例を示したことで，児童は積極的に活用することができた。また，授業中だけでなく，集会等においてもそれらを生かそうとする姿が見られるようになった。

○　中学校の「学びの三原則」を小・中共通実践としたことで，現中学１年生は，中学入学後も学習の約束事に抵抗なく取り組むことができた。

○　道徳コーナーの掲示によって，日常生活と道徳の時間を結びつけやすくなっている。児童生徒が道徳の時間に学んだことを生活に生かそうとする姿が見られた。

○　学級通信に掲載された道徳の時間の感想や生活の中で見られたよさなどを熱心に読む児童生徒の姿が見られた。友だちのよさを認めたり，友だちの姿から学んだりすることにつながっている。同時に保護者への啓発にもなっている。

イ　今後の課題

●　中学校では生徒指導上の課題もあり，「学びの三原則」が徹底できない場面も見られた。「学びの三原則」を徹底させるためには行動面の指導を充実させるだけではなく，今後生徒たちの発達段階に応じた授業づくりに力を入れていく必要がある。

●　今回の言語活動は，支持的風土のある学級集団づくりをねらいとしており，「コミュニケーション」という視点を重視したものであった。今後は，「知的活動の基盤」としての視点も意識しながら，教科の特性に応じた言語活動にも力を入れていきたい。

２　視点②「絆づくりの場としての学校教育活動等の充実」について

（１）心をそろえる学校内外の生活環境の整備

ア　掲示教育の充実　（小中全校）

子ども同士，教師と子どもの心の結びつきや信頼関係を高めることをねらいとして，掲示教育の充実に取り組んだ。

〈言葉でのつながりを意識した掲示の工夫〉　（中南小）

言語環境を整え，言葉でのつながりを高めるために，次の掲示を行った。

◇校内で使いたい言葉とあったか言葉

児童会が中心となって，言われてうれしい言葉や元気が出る言葉を掲示した。また，人権週間には，友だちからかけられた『あったか言葉』と，そのときの自分の気持ちをカードに書いて掲示し，紹介した。

【あったか言葉】

◇誕生日に関する掲示

月ごとに誕生日の子どもたちや教師が書いたカードを掲示した。また，給食時の放送では，その紹介を行った。友だちから「おめでとう」の言葉をかけてもらえることで，自分や友だちの命の大事さを感じることにつながっている。

【誕生日の掲示】

〈自尊感情を高めるための掲示の工夫〉　（登立小）

児童の自尊感情を高めるために，「世界に一つだけの花」と題した掲示を行った。

花の中心には顔写真，５枚の花びら１枚１枚に，自分自身のよさ，友だちにみつけてもらったよさ，家の人から見つけてもらったよさを書き，１輪の花の形にして掲示した。校舎内に全校児童の花を掲示している。

【世界に一つだけの花】

〈季節に合わせた児童参加型の掲示の工夫〉　（上小）

校長室前の掲示板に，季節に合わせた児童参加型の掲示を行った。新年には，新年の抱負や願いを書いた絵馬を，７月には七夕飾りを掲示した。

全児童が互いに見合うことで，互いを認め合うことにつながっている。１年を通して季節に合わせた掲示を行うことに児童は喜んで参加しており，この掲示が仲間づくりにつながっている。

【新年の絵馬】

イ　心をそろえる整理整頓の励行　（小中全校）

自分たちの生活環境を自分たちで整える態度を養うために，次の２つのことに取り組んだ。

（ア）靴並べ　（小中全校）

児童生徒全員が靴箱に靴のかかとをそろえて並べることを全校の共通実践事項として取り組み，朝から落ち着いた学校生活をスタートできるようにした。また，担任は登校後の靴の並び方を観察することで，子どもたちの心の状態を確認することができた。

【登立小　靴箱の整理整頓】

（イ）自転車並べ　（大矢野中）

駐輪場にラインを引き，駐輪時の自転車とヘルメットが並ぶようにした。朝から，職員が各学年の自転車小屋で生徒の登校を迎え，生徒会の交通安全委員も定期的に立ち会い，自転車通学生全体の意識づけを図った。

ウ　花いっぱい運動　（小中全校）

花に囲まれた学校環境づくりと児童生徒の心を育てる取組の一つとして，花いっぱい運動に取り組んだ。花を植え，育てることで学校環境に潤いを与えること，その活動を通して，学級や学年の交流を深めたり，責任感を育んだりすることねらいとした。中北小学校では，全児童が一人一鉢ずつ種から育て，独居老人の方，お世話になった方，卒業生の方などにプレゼントした。

【大矢野中　花の苗植え】

（２）児童会・生徒会活動の活性化

ア　あいさつ運動の実施　（小中全校）

あいさつ運動を全校児童生徒の活動として位置づけることで明るい校風づくりにつなげている。中学校では，クラスや委員会，部活動ごとに実施日を決めて，あいさつ運動に取り組んでいる。

また，今年度の夏休みに行われた上天草市子ども議会で大矢野中学校が提案した「笑顔の花プロジェクト」が採用され，上天草市全体で，毎月１日と１５日にあいさつ運動に取り組むことになった。

イ　異年齢集団でのふれあいの場の設定　（各小学校）

小学校では，学年を越えた人間関係づくりのために，次の２つのことに取り組んだ。

（ア）児童会主催による全校児童遊びの実施

全校児童で遊びを通して触れ合う機会を作るために，学期に１～２回程度，昼休みを利用して全校児童遊びの日を設定した。児童会が中心となって，全校児童で楽しく遊べるように遊びの内容やルール等について企画し，当日の運営も行った。

【登立小　全校児童遊び】

（イ）縦割り班活動の実施　（各小学校）

縦割り班活動では，遊びの場の設定や清掃活動等に取り組んだ。縦割り班遊びでは，班長が遊びを企画し，班ごとに遊ぶ活動を毎月１回程度，昼休みや朝の時間に実施している。陣取りやドッジボールなどを行っているが，複数の班で相談し，班対抗のドッジボールなども行った。小学１年生から６年生までの全員が楽しめるように，リーダーがルール等も工夫した。

【中北小　縦割り班遊び】

ウ　「きらりんカード」の実践（中北小）

中北小学校では，学期１回人権集会時に，縦割り班ごとにメンバーのいいところを見つけ，伝え合う「きらりんカード」の実践を行っている。

【実施内容】

①　縦割り班ごとに集まる。

②　２人組になり，あいさつをする。

③　お互いのいいところをカードに書き合う。

④　②③を繰り返す。

⑤　終了後，カードを教室等に掲示する。

【中北小　きらりんカード】

エ　「上天草市教育フォーラム」や「心のきずなを深めるシンポジウム」での活動紹介　（中南小）

市教育委員会主催の「教育フォーラム」や県教育委員会主催の「心のきずなを深めるシンポジウム」において，特色ある教育活動や授業の様子等を発表した。学校内外から評価してもらうことでさらなる取組の充実を図るとともに，子どもたちの活動の自信につながった。

【中南小　心のきずなを深めるシンポジウム】

（３）人間関係づくりに関するカリキュラムの実践

ア　小学校間の交流活動　　（小学校）

大矢野中学校には４小学校から入学するため，人間関係づくりの視点から小学校の段階で定期的に交流活動を設定していくこととした。前年度は２回のみの実施であったが，今年度は小学校５年生の集団宿泊教室も２泊３日の日程で４校合同で実施するなど，よりよい人間関係づくりのために交流活動の充実を目指している。

２年間で実施した（一部予定）小学校間の交流活動は，以下の通りである。

H24	７月２７日	上天草市子どもサミット事前学習会（バースデーライン，フープダウン等）	児童会・生徒会
	１月２４日	大矢野中学校体験入学「大中訪問」（２人組ゲーム，５人組ゲーム等）	６年生全員
H25	７月２３日	水泳記録会後（学校紹介，名刺交換）	６年生全員
	１０月　１日	陸上記録会(名刺交換した友達への挨拶，リーダー研修)	６年生リーダー
	１１月　１日	第１回リーダー研修	６年生リーダー・中学校生徒会執行部
	１１月６～８日	集団宿泊教室(大矢野地区合同宿泊教室)	５年生全員
	１１月１３日	第２回リーダー研修	６年生リーダー・中学校生徒会執行部
	１１月１４日	自立支援事業研究発表会　［本日］（交流活動）	６年生全員・中学校生徒会執行部
	１１月下旬（予定）	第３回リーダー研修	６年生リーダー・中学校生徒会執行部
	１月２３日（予定）	大矢野中学校体験入学「大中訪問」	６年生全員

〈水泳記録会後の交流活動〉

○期日　平成２５年７月２３日

○目的　６年生の交流及び絆づくり

○実施内容

各小学校の学校紹介，名刺交換（各１０枚ずつ）

○交流の様子

子どもたちは，おおむね楽しそうに活動できていたが，中には自分から進んで関わることができずに名刺を少ししか交換できない児童もいた。個別の支援が必要であった。

【他校の児童と名刺交換】

イ　グループエンカウンターの実施　（小中全校）

不登校等の未然防止を図る観点から，各学年の発達段階に応じたグループエンカウンター等を学活等を中心に実施した。中学校では，取り組みやすいエクササイズを精選した「エンカウンター実践資料集」を作成し実施した。

〈実施したプログラムの一例〉

○すごろくトーク：自分があたったテーマについてスピーチをおこない，コミュニケーションを図る。

○気になる自画像：「互いの特性」について意見交換をおこない，それをもとに自分の特性を見つめる。

○生徒の感想

「みんなの知らなかったこととかたくさん聞くことができました。みんな恥ずかしがらずにどんどん答えていたので，あっという間に終わりました。あと，一番にゴールできたのでよかったです。」（すごろくトーク）

「自分が思っていた自分と，みんなが思っている自分が違っていて，自分の特性が見つかったような気がしました。」（気になる自画像）

（４）取組の成果と今後の課題

ア　取組の成果

○　「あったか言葉」「誕生日の掲示」などの掲示や「きらりんカード」の取組が，好ましい言葉遣いや優しい言葉かけ，よりよい人間関係づくりにつながっている。また，自分や友だちの命の大切さを感じることにもつながっている。

○　あいさつ運動を通して，子どもたち同士のあいさつが充実してきた。中学校では，計画されたあいさつ運動以外にも，生徒会役員の生徒を中心として，自主的にあいさつ運動を行う生徒が出てきた。雨の日には，傘を持たずに駐輪場から移動する生徒を昇降口まで送ったりする動きも見られるようになった。

○　児童会主催による全校児童遊びや縦割り班活動では，学年を超えた交流ができ，多くの児童が楽しみとするようになった。また，企画をする児童のリーダーとしての自覚と，企画・運営力の向上につながっている。また，この活動を通して上級生が下級生を思いやり，下級生は上級生を慕うなどのよりよい関係が築かれている。

イ　今後の課題

●　小学校間の交流活動の成果として，中学入学後の生徒間の仲はよい。しかし，集団の規律という点では課題もある。現段階までは仲間づくりや交流することに主眼を置いていたが，今後はリーダー育成等，集団の規律を高めるための実践も充実させていきたい。

●　グループエンカウンターを実施する中で，小集団の中に人間関係ができていないメンバーがいると，活動がうまく進まない場面も見られた。継続的に取り組む中で，多様な小集団において自己開示ができるような関係を築いていく必要がある。

３　視点③「不登校の未然防止・解消に向けた関係機関との連携」について

（１）しろやまハウス（大矢野中学校内分教室）の運営

ア　しろやまハウス設立の経緯と現在の状況

学校に登校できるものの，教室での学習に参加できない生徒の居場所として，分教室「しろやまハウス」（以下「しろやま」）を設置している。平成１７年９月より，学校敷地内の校長住宅に開設し，平成２０年度以降，校内の空き教室に移し運営している。

「しろやま」は，主に担任，教科担任，自立支援担当と自立支援コーディネーター（平成２１年度より市職員として１名配置）が連携しながら運営している。また，本年度２学期からは，毎週火曜日の午前中に市教育委員会のいじめ・不登校アドバイザーにも相談活動や学習支援を行ってもらっている。

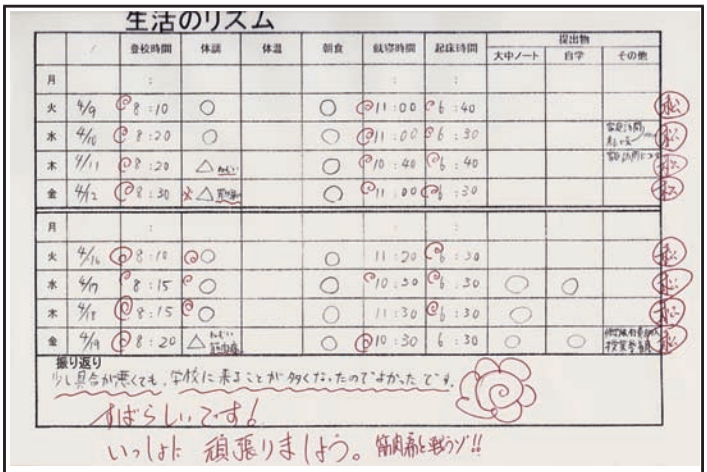
現在，２年生５名が在籍し，教室復帰に向けた支援を行っている。その５名のうち３名は，教科によっては教室で学習に参加できるようになってきている。

「しろやま」のプログラムについては，教室での授業を優先としながら，個別の学習計画を設定し教科の学習に取り組んでいる。あわせて，農業体験やものづくり等の体験活動にも適宜取り組んでいる。

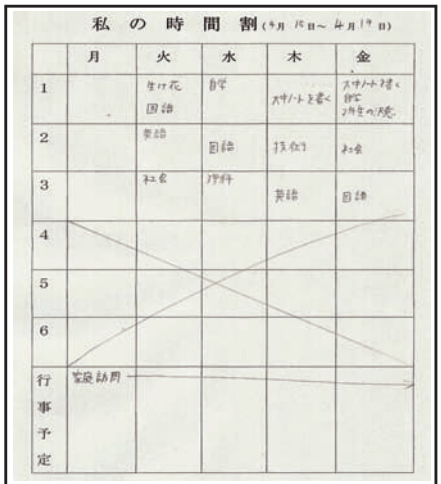
【いも畑の草とり】

イ　「しろやま」の生徒への学習支援の計画，実施

「しろやま」の生徒は，個々の実態に合わせて，教室で授業を受けたり，「しろやま」で学習に取り組んだりしている。個別の対応が必要となるので，担任はもとより学年部や教科担任との連携は不可欠である。そこで，自立支援コーディネーターが調整役となり，今年度は「しろやま」に在籍する生徒の教科担任が空き時間を利用して学習支援を行うことにしている。翌週の時間割が確定した段階で学習支援の時間割を作成している。



【毎朝記入する健康チェックカード】



【生徒の学習計画】

ウ　「しろやま」内での継続的な体験活動の実施

「しろやま」では，教科の学習とともに体験活動にも継続的に取り組んでいる。校地内にある畑を利用した栽培活動，収穫した野菜を使った調理実習等，季節に合わせた体験活動のほか，命を大切にする心を育むためにメダカの飼育も行っている。

【今年度の体験活動計画】

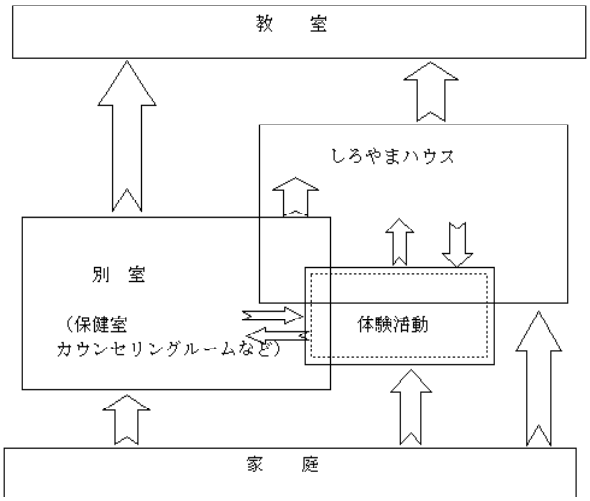
月	栽　培	調　理	製　作
4	畑の肥料やり，草とり		ズボンの裾あげ
5	玉ねぎ，じゃがいもの収穫 トマトの苗植え	蒸しじゃがバター じゃがいも・玉ねぎのチーズマヨ焼き	「会議中」表示箱の色塗り ホック付け，アイロンがけ
6	畑の畝立て さつまいもの苗植え ごま植え		台ふきづくり 技術・美術の作品製作
7	畑の草とり	ゼリー	
9	ごまの収穫，分別	ごまクッキー	
１０	じゃがいも植え		
１１	いも堀り ほうれん草等の葉もの植え	いきなり団子	
１２	玉ねぎ植え	カップケーキ	
1			アクリルたわし作り
2		クッキー	
3			

＊年間を通じて，メダカの飼育，生け花にも取り組んでいく。

（２）学校復帰，教室復帰に向けたプログラム開発とその推進

ア　復帰プログラム構想

不登校の生徒が教室復帰を果たすまでの過程は様々であるが，個々の実態に応じて次のような流れで最終的には教室復帰を目指していく。



【復帰プログラム構想】

ステージ	生徒の姿
1	保護者の送迎で学校（しろやま）に登校することができる。
2	自分で学校（しろやま）に登校することができる。
3	しろやまで午前中過ごすことができる。
4	しろやまで給食まで過ごすことができる。
5	しろやまで午後まで過ごすことができる。
6	しろやま以外の集団と関わることができるようになる。 （給食、掃除、テスト、朝の会、帰りの会、いくつかの教科、部活動、行事など）
7	しろやま以外の集団と関わる時間が増え、教室で過ごす時間が増える。
8	教室で１日過ごすことができる。

【「しろやま」から教室復帰までの流れ】

不登校状態の生徒の中には，別室登校，「しろやま」への登校を経て教室復帰を果たした生徒もいたが，別室登校にも抵抗を示す生徒がいた。そこで，別室登校や「しろやま」への登校にも抵抗がある生徒が，一歩家庭から出て学校に近づくためのステップとして，天草青年の家など地域の他団体と連携した体験活動を位置づけた。

「しろやま」に登校できるようになった生徒については段階的に教室復帰を目指すため，その流れを８つのステージに整理した。このプログラムをもとに，現状の確認，次の目標設定とそのための手だての確認などを行い，個に合わせた指導を行っている。

〈事例〉

前年度中学校を卒業したＡさんは，人と関わることが苦手で，小学校の時から登校しぶりがあった。中学入学後は，集団宿泊教室には参加できたが，その後なかなか登校ができなくなり，中学１年生の６月より「しろやま」に来室するようになった。自立支援コーディネーター，学級担任が中心となって関わりを持ち，次のような段階を追って少しずつ学級に入ることができるようになり,最終的には教室復帰を果たすことができた。

ｽﾃｰｼﾞ	生徒の姿	生徒Ａ	
４	しろやまで給食まで過ごす。	中１（６月）	４時間目までに登校し，６時間後下校
５	しろやまで午後まで過ごす。		
２	自分で登校する。	中１（３月） 中３	１～２時間目までに登校 ７時４５分までに登校
６	しろやま以外の集団と関わる。（給食，掃除，テスト，朝の会，帰りの会，いくつかの教科，部活動，行事など）	中１（１２月） 中２	持久走大会，終業式に参加 写生大会，部活動に入部，職場体験学習，修学旅行等
７	しろやま以外の集団と関わる時間が増え，教室で過ごす時間が増える。	中３（４月） （５月） （９月） （１２月）	給食当番，音・英・体以外の授業に参加 体育大会 体育に参加 持久走大会
８	教室で１日過ごす。	中３	卒業式，退任式

〈Ａさんが卒業式の日に自立支援コーディネーターに渡した手紙〉

３年間ありがとうございました。３年前１年生の時，不登校だった僕をしろやまに誘ってくださったのはしろやまの先生でした。１年生の頃は先生には何回もめいわくをかけたと思います。でも今ではしっかりと教室に入って授業も受けられるようになり，きっちりと受験もしてあとは結果を待つのみとなりました。僕がここまで変わったのは，しろやまの先生のおかげです。３年間本当にありがとうございました。

イ　他団体と連携した体験活動

「しろやま」に在籍している生徒，不登校の生徒には，他者とのコミュニケーションを苦手としている生徒が多い。また，教室で過ごす時間や行事等への参加が少ないために，一部の限られた人間関係の中で生活している生徒もいる。

そこで，できるだけ様々な人との関わりを持たせる機会をつくるために，他団体と連携した体験活動を計画的に実施することとした。

実施日	活動内容	連携団体	参加生徒
５月２８日	花の苗植え	老人会	１名
７月　５日	ニュースポーツ（ユニカール他）	天草青年の家	５名
１０月３０日	ニュースポーツ（アールディーチャレンジ他）	天草青年の家	４名

〈ニュースポーツを楽しむ会〉

○期日　平成２５年７月５日 第３校時

○講師　天草青年の家　専門職員２名
（天草青年の家の出前講座を利用）

○実施内容　ユニカール，アールディーチャレンジ

【ユニカール チーム対抗戦】

○生徒の様子

「しろやま」の生徒だけでなく，普段，学校に登校できない生徒にも招待状を作り，参加を促した。参加できなかった生徒もいたが，中には会への参加を楽しみにして，保護者と一緒に参加した生徒もいた。また，見学での参加ができた生徒は，活動後も「しろやま」に入り，終日学校で生活することができた。

様

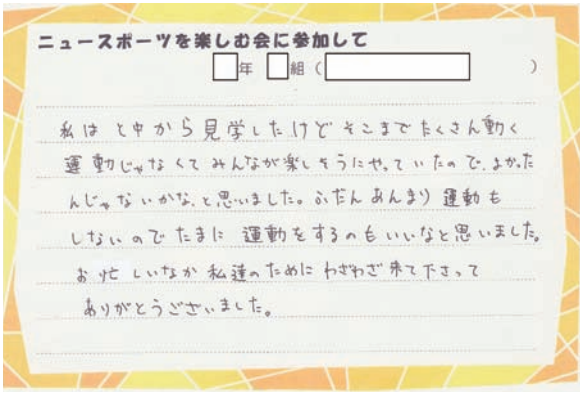
来週７月５日（金）の３時間目、天草青年の家の職員の方と一緒に、ニュースポーツを楽しむ会を開きます。

参加者は、しろやまハウスの３人とあと数人です。少人数なので、みんなで仲良く楽しみたいと思います。

さん の参加を楽しみに待っています！

日時　７月５日（金）３時間目（10:45~11:35）
場所　大矢野中学校体育館

【ニュースポーツを楽しむ会の案内状】



ニュースポーツを楽しむ会に参加して

年　組（　　）

私は 途中から見学したけど そこまで たくさん動く 運動じゃなくて みんなが楽しそうにやっていたので よかったんじゃないかな、と思いました。ふだん あんまり 運動も しないので たまに 運動をするのも いいなと思いました。おばあちゃん 私達のために わざわざ来て下さって ありがとうございました。

【参加した生徒の感想】

（３）組織的な校内支援体制の確立と関係機関との連携

ア　組織的な校内支援体制の確立

各学校の実態に応じて，不登校対策の会議や委員会を定期的もしくは必要に応じて実施している。

【登立小学校の例】

〈不登校対策委員会の実施〉

不登校対策委員会を定期的に開催している。その中で，気になる児童の様子や対策について意見交換している。また，必要なときには適宜開催するようにしている。

具体的な事例としては，母親より「子どもを長期間休ませたいが、不登校になるかもしれないという不安がある。」という相談があり，関係職員が集まって，不登校対策委員会を急遽開催して対策を考え，すぐに対応した結果，登校できるようになった。

〈「見つめる会」の実施〉

職員朝会の始まりの時間に，毎回１クラスずつ，課題を抱える児童について全職員で共通理解する時間を設けている。担任が一人で問題を抱え込むのではなく，職員全員で情報を共有し，チームで取り組んでいる。

【大矢野中の例】

〈生徒指導部会〉

定期的に生徒指導部会を実施している。生徒指導上の問題だけでなく，各学級の気になる生徒についても情報交換や対応策の検討を行っている。

〈ケース会議の実施〉

学年部の職員，管理職，生徒指導担当等が参加するケース会議を随時開催し，対応について協議している。状況に応じて，スクールカウンセラー（以下「ＳＣ」）やスクールソーシャルワーカー（以下「ＳＳＷ」）等にも参加してもらっている。

イ　関係機関との連携

不登校状態の子どもたちのみならず，未然防止の意味からも課題等が見られる場合は早期にＳＣやＳＳＷ等と連携を図るようにしている。

大矢野中学校がＳＣの配置拠点校となっており，週に１日程度の来校があるので，児童生徒の相談のみならず，教員や保護者の相談にも積極的に活用している。本年度９月末段階で，ＳＣの来校日の１４日間に相談した生徒はのべ１８人，保護者はのべ９人，教職員はのべ３１人となっている。

ウ　教育講演会の実施

生徒や保護者向けに外部の有識者による講演会を実施した。

日時・場所	参加者	講師・演題
7 月 11 日㈭ 19:00 ~ 21:00 大矢野中体育館	大矢野中校区小中学校保護者，校区内保育園関係者，上天草高校関係者，地域の方々	岡崎光洋氏（くまもと心理カウンセリングセンター代表，臨床心理士） 「現代の子育てで特に大切なこと」
11 月 6 日㈬ 14:00 ~ 15:30 大矢野中体育館	大矢野中生徒，教職員，保護者	田中敏弘氏（株式会社 鮮ど市場代表取締役 社長／社会人野球チーム 熊本ゴールデンラークス監督） 「努力をすることの大切さ」

７月に行った保護者向けの子育て講演会では，小中学校の保護者に案内を配付する他，公共機関やスーパー等に開催案内のポスターを掲示し，参加を呼びかけ，約１００名の参加者を得た。子育てをする上で大切な考え方，子どもとの接し方，子どもに伝えてほしいこと，学校に通うことの意義等についての講演は，参加者に大変好評であった。

【子育て講演会】

（４）保育園・小学校・中学校・高等学校の連携の充実

ア　上天草高校生による学習支援教室（上小・中北小）

小学校１～６年生の補充学習が必要な児童および希望者を対象として，校区内にある上天草高校の学習支援ボランティアによる学習支援教室を夏休みと冬休みに実施した。長期休業中の学習課題や漢字・計算大会等の学び直し等に高校生の支援を受けながら取り組んだ。上小では、今年度の夏休みには，２１名の高校生の参加を得ることができた。

【上小 高校生との学習】

イ　保・小・中・高連携による交流授業の実施

保・小・中・高の各校（園）が連携して，児童生徒の発達段階に応じた指導方法の在り方や実態把握，教員の授業力向上を目指して，前年度１１月より大矢野ブロック交流授業を行っている。本交流授業では，校区内の各校で研究授業と授業研究会を実施し，その中で自立支援事業の視点に沿った意見交換も行っている。

平成２５年度大矢野ブロック交流授業計画　　平成　２５年８月２０日（火）現在

実施期日 学校学年 教科 授業者	９／２７（金）	１０／７（月）	２／４（火）	１０／３（木）	１１／１１（月）	１２／９（月）	１１／１９（火）	１／２８（火）	９／１２（木）
	湯島中学校	大矢野中学校		維和中学校	維和小学校	上小学校	中南小学校	登立小学校	中北小学校
学校参加者	１年・英語 佐藤先生	３年・理科 芹田陽	２年・英語 平田早紀	○音楽 岩田先生 ○国語 高浜先生	５年・道徳 坂本先生	６年・国語ＴＴ 梅田哲 山下留征	○１年・国語 福田直理 ○３年・国語 喜山和歌子 ○６年・国語 高田実里 ○特別支援教育 森留美子 池田小百合	ＩＣＴを活用した「未来の学校」創造プロジェクト研究推進校発表 ○１年・国語 坂本裕美 ○５年・外国語 相尾美保 ○６年・算数 吉森政信 山下るみ 井上泰宏 ○特別支援・生単 森下慎太郎 竹川富貴子 森田剛正	６年・国語 満留佳子
大矢野中学校	芹田陽			嶋尾聡美 安成美保 徳永さゆり 福永千賀	木村知裕 村山恵子 園村大地 吉田直美	窪田智久 淀川一哉 前田兼香 師井大亮	豊原康徳 松田真也 芹田陽 高橋陽子 藤ノ木隆洋	奥田一之 吉田嘉穂 岩田健作 平田早紀 高石朋克 坂井寿歌	満田桂子 田中真実

【平成２５年度大矢野ブロック交流授業計画】

ウ　中学校教員の小学校授業への参加

中１ギャップの問題を少しでも解消するために，中学校から英語科の教師が各小学校に出向き，小学校の学級担任とＴＴで外国語活動の授業を行った。

〈授業後の児童の感想〉

◇　今日は中学校の先生がいらっしゃいました。英語がペラペラな人は，私のあこがれなのでかっこいいなと思いました。私もなりたいです。

◇　今日は５時間目の外国語活動で大矢野中の先生がいらっしゃいました。中学校の先生だったので分からない英語もありましたが，とても楽しかったです。

【上小　中学校教員の授業参加】

（５）諸たよりの発行

上天草市教育委員会では平成２４年度，市内全小・中学校の教職員向けに自立支援だよりを 11 回発行した。目的は，以下のとおりである。

○大矢野中学校区自立支援事業の啓発
○不登校対策を中心とした教職員の指導力向上
○自立支援に関する情報提供

また，大矢野中学校からはＳＣの積極的活用を図ることを目的として，定期的にスクールカウンセラーだよりを発行している。スクールカウンセラーだよりはデータで小学校にも配信し，各校で印刷して全家庭に配付している。

上天草市自立支援だより「いきいき」　NO9　H25．1．4
文責：上天草市教育委員会　学務課

明けましておめでとうございます

いよいよ平成24年度もまとめの学期を迎えました。中学校では3年生の進路事務も本格的にスタートし，忙しい毎日を迎えることだと思います。大変な時期ではありますが，不登校の未然防止や改善・解消に向けてしっかり取り組んでいきましょう。また，小・中学校の連携の視点から，中一ギャップの解消のため，小中のつながりを特に意識した実践を小学校，中学校それぞれでお願いします。

大矢野中学校区自立支援事業の取組紹介

1　小・中学校間及び各小学校間の連携を意識した実践

(1) 大矢野中学校区交流授業

自立支援事業の視点①である「授業づくり」の共通理解・共通実践の場として，「校区交流授業」を１１月より実施している。（２学期末で計４回実施。３学期は小学校３校において，６本の授業を公開予定）それぞれの学校が互いに授業を公開し，各教員の指導力の向上を図るとともに，小中連携の視点から意見交換することで，自校及び校区内の取組に生かすことをねらいとしている。また，本交流授業では，近隣の保育園，上天草高校にも案内を出し，参加してもらっている。

(2) 「学びのスキル」の共通実践

上記交流授業の中で出た意見をもとに，中学校へ向けて，小学校６年生における共通実践事項を設定し，各校の「学習の約束」とあわせて，全校が同じ歩調で実践していくこととした。

【大矢野中学校区小学校第６学年共通実践事項】

1　チャイムで自分の席に着きましょう。
○チャイムが鳴ったら，すぐに席に着きましょう。
○席に着いた状態でチャイムを聞こう。
2　授業中，しゃべっていい時としゃべっていけない時のけじめをつけましょう。
○授業中に無駄なおしゃべりはやめましょう。
○発言を求められたら，挙手して積極的に発表しましょう。
3　発表する時は，「です」や「ます」など，語尾まではっきりと話しましょう。
○文末の表現まで自信を持って，はっきりとした声で話しましょう。
○単語だけでなく，主語・述語を入れて，元気よく発言しましょう。

2　校内の環境づくりの実践（掲示教育の充実）

自立支援教育の視点②である「教育環境の整備」として，掲示教育に力を入れて取り組んでいる。

【各校の実践事例】

<道徳の日常化を図る掲示>
道徳コーナーを教室内に設置

<仲間づくりの視点の掲示>
友達の親切やがんばりの紹介

<言語環境を整える掲示>
意識して使いたい言葉の紹介

【自立支援だより「いきいき」】

（６）取組の成果と今後の課題

ア　取組の成果

○　「しろやま」での学習や体験活動の充実を図ったことで，在籍している生徒のうち段階的に教室復帰に近づいている生徒が出てきている。

○　他団体と連携した体験活動をきっかけとして，少しずつ登校できるようになったという改善例が見られた。

○　積極的に関係機関等と連携することで，教師の負担が軽減され，気になる児童・生徒の状況改善にもつながっている。

○　中学校から小学校に出向いて授業をすることで，中学校の教師は小学校での児童の状況を把握することができ，児童も中学校の教師の授業を受けることで中学入学に対する不安を少しは軽減することができたようである。

イ　今後の課題

●　「しろやま」の生徒への学習支援を通して，複数の職員との関わりができたが，さらに多くの職員との関わりを増やしていく方法を検討していく必要がある。

●　「しろやま」に在籍する生徒の教室復帰に向けては，検討した対応策がスムーズに実行できるように自立支援コーディネーターと担任との連携をさらに充実させていく必要がある。

Ⅲ　研究の成果と課題

１　視点①　「支持的風土のある学習集団づくり」について

○　授業において，学習意欲と学習の主体者としての意識を高める授業づくりや互いの考えを伝え合い，共に高め合う言語活動の充実を図った。

平成２５年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙の回答結果によると，次の３項目において，熊本県の結果よりも「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合が高かった。

〈平成２５年度全国学力・学習状況調査　児童・生徒質問紙回答結果　１〉

質問番号（７）友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか

質問番号（８）自分の行動や発言に自信を持っていますか

質問番号（９）友達に伝えたいことをうまく伝えることができますか

	＊値は％	当てはまる		どちらかといえば当てはまる	
		中学校	小学校	中学校	小学校
質問番号（７）	**大矢野中校区**	**１４．２**	**１４．８**	**２９．９**	**３２．８**
	熊本県	１２．８	１７．８	３０．０	３０．２
質問番号（８）	**大矢野中校区**	**１１．８**	**６．６**	**３４．６**	**４７．５**
	熊本県	８．８	１３．１	３５．０	４２．７
質問番号（９）	**大矢野中校区**	**１８．９**	**２７．９**	**５５．９**	**４７．５**
	熊本県	１７．０	２４．０	４８．９	４７．６

小学校６年生では質問番号（８）について熊本県の平均より低いが，今後，経験を積み重ねることによって，少しずつ自信を持って発言できるようになると思われる。

また，小学校においては，６月，９月に実施した生活アンケートにおいて，次の３項目で高い数値が得られた。

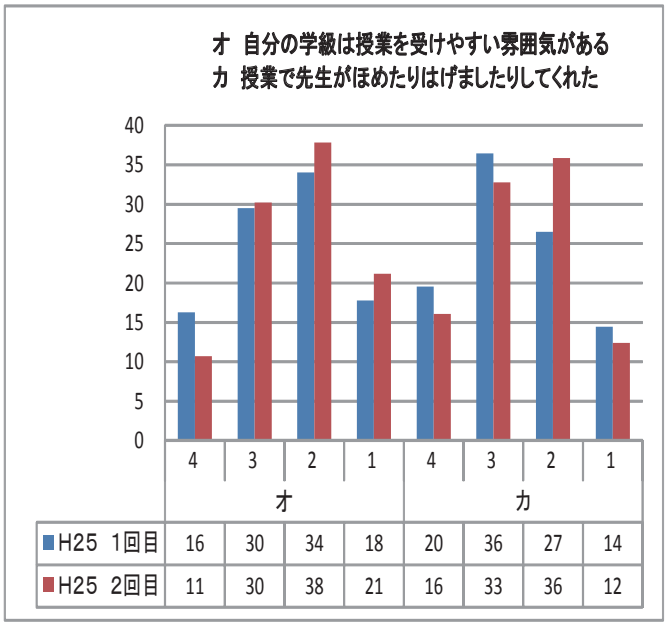
〈生活アンケート結果　１（小学校）〉　＊値は％

		そう思う	少しそう思う	合計
授業で友達の意見や考えをきちんと聞くことができた	６月	５７．９	３１．８	８９．７
	９月	４８．９	４０．１	８９．０
授業で友達が発表をきちんと聞いてくれた	６月	６０．７	２６．４	８７．１
	９月	４８．５	３７．６	８６．１
自分の学級は授業しやすい雰囲気がある	６月	５９．１	２６．４	８５．５
	９月	４５．１	３８．４	８３．５

これらのことから，子どもたちが自らの存在感を実感できるような「支持的風土のある学習集団」に迫ることができたと考えられる。

● 中学校においては，小学校と同様に６月，９月に実施した生活アンケートの右の項目に課題が見られた。生徒指導上の課題があることから，授業中の落ち着きに欠ける部分があり，授業が受けやすい雰囲気ではないと考えている生徒が多い。それにともない教師が生徒に対して注意することが多くなり，「授業で先生がほめたりはげましたりしてくれた」ことがあまりないと感じている生徒も多い。関係機関や保護者との連携も充実させて落ち着いた学習環境の充実を図るとともに，行動面だけでなく，学習内容について「ほめること」をさらに意識した授業づくりを行っていく必要がある。

〈生活アンケート結果　２（中学校）〉



４そう思う　３少しそう思う　２あまり思わない　１思わない

２　視点②　「絆づくりの場としての学校教育活動等の充実」について

○　子ども同士や教師と子どもの，心の結びつきや信頼感を高めるために，児童会・生徒会活動の活性化，人間関係づくりに関するカリキュラムの実践等に取り組んだ。

平成２５年９月に行った生活アンケートで「学校が楽しい」と答えた生徒は，中学校で８５％，小学校で９４％と高い割合を示している。

また，平成２５年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙の回答結果によると，次の３項目において，「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合が，熊本県，全国を大きく上回った。

〈平成２５年度全国学力・学習状況調査　児童・生徒質問紙回答結果　２〉

質問番号（３８）学校に行くのは楽しいと思いますか

質問番号（３９）学校で友達に会うのは楽しいと思いますか

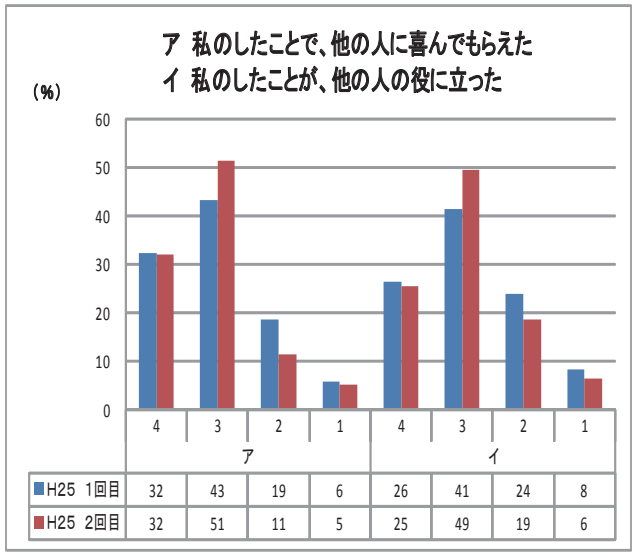
質問番号（５０）自分の考えや気持ちを理解してくれる友達がいますか　＊中学校は(５１)

	＊値は％	当てはまる		どちらかといえば当てはまる	
		中学校	小学校	中学校	小学校
質問番号（３８）	**大矢野中校区**	**５１．２**	**６５．４**	**３６．２**	**２４．３**
	熊本県	４８．０	５３．９	３５．３	３３．７
	全国	４６．０	５２．１	３４．５	３２．９
質問番号（３９）	**大矢野中校区**	**８７．４**	**８３．２**	**９．４**	**１５．０**
	熊本県	７６．３	８１．２	１９．５	１４．４
	全国	７４．８	８２．０	１９．７	１４．０
質問番号（５０）＊中学校は(５１)	**大矢野中校区**	**６２．２**	**６８．９**	**２８．３**	**２４．６**
	熊本県	５２．１	５９．３	３４．９	２９．０
	全国	５２．９	６１．６	３３．４	２６．４

小学校においては，６月，９月に実施した生活アンケートにおいて,「私のしたことで，他の人に喜んでもらえた」「私のしたことが，他の人の役にたった」の２項目の割合が上昇した。このことから，子どもたちがより多くの自己有用感が得られるような体験をし，自分の存在感を実感していると考えられる。

以上のことから，子どもたちは様様な学校教育活動を通して，自らの存在感を実感するとともに，学校が子どもたちにとって魅力ある学校となってきていると考えられる。

〈生活アンケートの結果　３　（小学校）〉



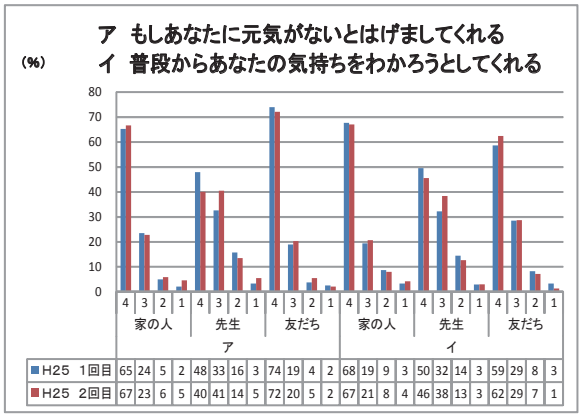
４そう思う　３少しそう思う　２あまり思わない　１思わない

● ６月，９月に実施した生活アンケートで次ページの２項目について中学校で課題が見られる。

小学校と比較すると，ア，イ両項目において，「先生」の数値が低くなっている。また，小学校においては両項目とも「先生」の数値が１回目と比べて２回目が高くなっているのに対して，中学校では両項目とも２回目の方が数値が低くなった。

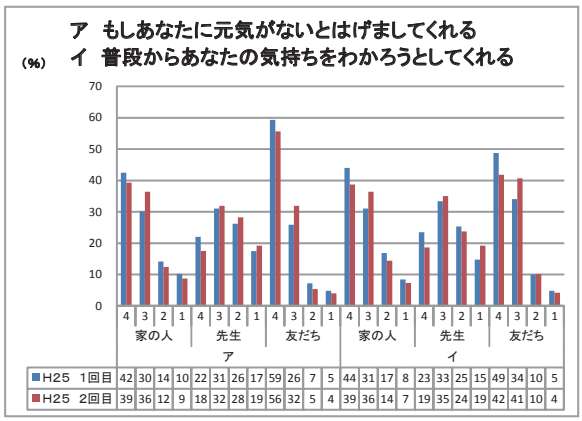
中学校では教科担任制のため，小学校と比べると教師と生徒の関わりが薄くなりがちではあるが，１回目より２回目の数値が低くなっているのは，生徒指導上の問題への対応が多くなり，生徒との関わりが薄くなってしまったことが影響していると考えられる。授業をはじめとして，様々な活動を通して生徒との関わりを増やしていくことに努め，教師と生徒の結びつきや信頼感を高め，魅力ある学校づくりにつなげていきたい。

〈生活アンケート結果　４（小学校）〉



４そう思う　３少しそう思う　２あまり思わない　１思わない

〈生活アンケート結果　５（中学校）〉



４そう思う　３少しそう思う　２あまり思わない　１思わない

３　視点③　「不登校の未然防止・解消に向けた関係機関との連携」について

○　中学校の「しろやま」の運営や関係機関との連携，保・小・中・高の連携を図り，不登校の未然防止，解消を目指してきた。

取組の結果，不登校児童生徒の数及び出現率は，以下のように減少した。

年度	児童生徒数	出現率
Ｈ２３	１２（１１）	1.10%（2.89%）
Ｈ２４	６（５）	0.57%（1.27%）
Ｈ２５	５（４）	0.48%（1.03%）

＊ H23，24 については，２月末現在
H25 は９月末現在
（　　）内は大矢野中学校の数値

以前と比較すると，不登校児童生徒の数は年々減少している。平成２３年度に不登校であった児童生徒のうち２名が，平成２４年度には解消している。

また，平成２４年度不登校児童生徒６名のうち２名は，２月段階で教室復帰ができている。さらに平成２５年度不登校児童生徒５名のうち２名は改善の方向に向かっている。改善例としては，次のようなものが挙げられる。

〈本年度１学期と比べて２学期に欠席が減少している事例〉

現在中学１年生のＢさんは，小学校５年生のときから不登校状態になり，１学期の欠席日数は６０日に上った。担任が保護者との連携を密に行い，本人と関わり続けたが，なかなか登校は難しい状態だった。しかし，７月に実施した体験活動「ニュースポーツを楽しむ会」には見学という形であったが参加することができ，会の後も「しろやま」に入り，久しぶりに夕方まで学校で過ごすことができた。この後少しずつ登校できる日がでてきた。２学期になった現在は保健室登校をしているが，登校時間が少しずつ早くなったり，給食を別室で友達と一緒に食べたりすることができるようになり，１日学校で過ごす日が増えてきている。また，授業にも少しずつ参加できるようになっている。

●　現在，ほとんど学校に登校できない生徒が２名いる。ＳＣ，いじめ・不登校アドバイザー，医療機関等と連携しながら対応しているが，１名は昨年度２学期より，もう１名は今年度７月から９月現在までの登校ができていない状態にある。

まずは家庭から外へ出る機会を増やし，登校へとつなげられるように今後，関係機関との連携をさらに強化していくことが課題である。

おわりに

平成２４年度から２か年にわたり，上天草市では文部科学省・熊本県教育委員会より「子どもたちの自立支援事業」の指定を受け，大矢野中学校と登立小学校，上小学校，中北小学校，中南小学校の５校で不登校等の未然防止とその解消を図るための研究に取り組んで参りました。

さて，現在の本校区の不登校に関する特徴としては次のような点が挙げられます。

① 小学校においては不登校児童の出現率が極めて低い状況であり，中学校入学後に不登校生徒が増え，天草管内の出現率を大きく上回ること。

② 不登校に至る要因は多岐にわたっているが，不登校のどの児童生徒においても少なからず「人間関係づくり」という点で課題が見られること。

③ 過去の「自立支援実践モデル事業」の研究実践の継続で，市教育委員会と大矢野中学校が連携して分教室「しろやま」を開設し，不登校傾向にある生徒の教室復帰を目指していること。

そのような特徴をふまえ，本研究では「連携」をキーワードに，「小学校と中学校の連携」「各小学校間の連携」「関係機関との連携」を軸として，主に授業をはじめとする各教育活動において不登校を出さない『環境づくり』『人間関係づくり』に取り組みました。

『環境づくり』においては，授業において互いのよさを認め合い，自信を持って自由に発言ができる支持的風土のある学習環境づくりや校内掲示や校内緑化による温かい生活環境づくりに小中の共通実践事項として取り組みました。特に校舎内の環境整備においては市当局より多大なる援助もいただきながら充実した取組ができたと感じております。一方，学習環境づくりについては，まだまだ実践途中であり課題も多いのが実状です。

『人間関係づくり』については，本日の研究発表会でもご覧いただいたように，中学校入学前から互いのことを知り，スムーズに中学校生活に入っていけるように，小学校高学年における交流活動を昨年度末から充実させてきました。この交流活動の成果は，来年度以降の児童生徒の姿で検証できると思いますが，必ず，中学校生活のスムーズなスタートが切れ，好ましい人間関係が構築されていくものと信じております。

今回の研究指定は２か年でしたが，この間実践したことは今後も継続していかなければならないものだと小学校，中学校の双方で認識しております。これから先，本研究の成果を生かし，不登校児童生徒ゼロを目指して実践の充実を図っていく所存です。

最後になりましたが，これまでご指導・ご支援を賜りました熊本県教育委員会，天草教育事務所その他多くの関係諸機関の皆様に心から感謝し厚く御礼申し上げます。

平成２５年１１月１４日

上天草市立大矢野中学校
登立小学校
上小学校
中北小学校
中南小学校